

外国語の学習と指導における 第二言語習得研究の果たす役割

第二言語習得研究は外国語の学習と指導にどのように役立つのでしょうか？

本DVDでは、世界トップレベルの研究者であるジョン・マーク・デワール教授とローデス・オルテガ教授の講演を通して、そのヒントを得て欲しいと思います。

デワール教授は、**外国語学習における感情の重要性**を説いています。我々は、動機付けの低さや不安などのネガティブな感情ではなく、学ぶことによる喜びや楽しさなどのポジティブな感情に着目すべきだと主張しています。**「教師は日々型にはまった授業をしてはいけない」**というデワール先生の言葉は、新しい気付きを与えてくれることでしょう！

オルテガ教授は、**第二言語習得研究が我々教師にとってどのような価値があるのか**を説明してくれています。具体的には、日々の指導にすぐ生かせそうな成果(例:動機付け)、現段階では注意が必要な成果(例:フィードバック)、教師の見方・考え方を広げてくれる成果(例:早期教育の効果)について具体的に示してくれています。

併せてお二人へのインタビューで日本の英語教師への具体的なアドバイスやメッセージも受け取りつつ、日々の英語指導にお役にたください！

外国語学習における
感情の重要性を学ぶ！

DVD
VIDEO

監修/鈴木 渉(宮城教育大学教育学部 英語教育講座) 撮影協力/宮城教育大学

全2巻 セット特価 12,000円+税(送料別)/各巻 7,000円+税(送料別)

※講演はすべて英語で本DVDもすべて音声はそのままです。(字幕なし)

購入特典

PDF形式資料
各10頁
(講演の英文原稿)

日々の指導にすぐ生かせそうな成果、教師の見方・考え方を広げてくれる成果とは！

E141-1
73min

Emotions in Foreign Language Learning

～教室における外国語学習の楽しみと不安～

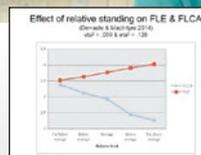
講演者

ジョン・マーク デワール博士 / Dr. Jean-Marc Dewaele (Birkbeck, University of London)
パークベック・カレッジ(ロンドン大学)教授、専門は応用言語学やマルチリンガリズム。

- 1 ゴルトマン・ドルニエイ先生と私の間の論争 -感情は外国語学習に重要か？-
- 2 外国語学習における感情の役割
- 3 これまでの外国語学習不安の研究の概観
- 4 外国語学習の不安と楽しみに関する研究の具体例
- 5 研究を授業にどう生かすことができるのか？
- 6 まとめ

〈Q&A〉

【講演内容について ~Dewaele教授へのインタビュー~】現在の研究や第二言語習得で成功するための重要な要因、更には学習者のモチベーションを高めるための方策、英語授業を楽しくする秘訣など視聴者へのメッセージも含め語ってもらった。



Studies on specific emotions in FL classrooms

- Shame (Dewaele, 2017)
- Love & enjoyment (Pavlenko, 2014; Pavlenko & Piro, 2018)
- Achievement, epistemic, topic & social emotions (Pinet & Albert, 2016, 2018)
- Anxiety & enjoyment in CLIL (de Groot, Hellewell, Galsand, Hagemans & Nessel, 2018)
- Hope, enjoyment & frustration (Rios & Strack, 2016; Rios & Rios, 2018)

E141-2
73min

How to apply SLA findings into a real classroom?

～第二言語習得研究(SLA)は、語学教師に何を提供できるか?～

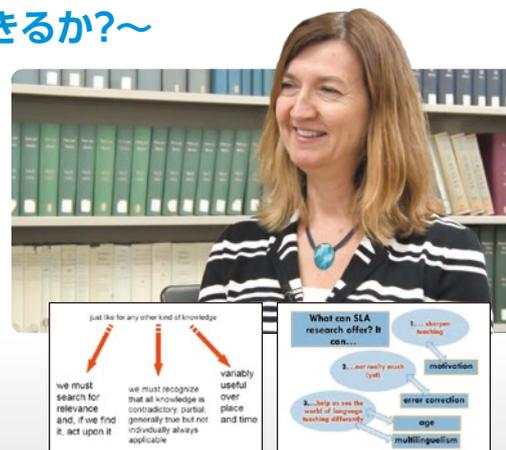
講演者

ローデス・オルテガ博士 / Dr. Lourdes Ortega (Georgetown University)
ジョージタウン大学教授、専門は第二言語習得。

- 1 My goal today...
- 2 SLA research at its best sharpens what teachers already know and do best...
- 3 But sometimes, research must be critically put aside by teachers...
- 4 Realistic expectations about research...
- 5 Sometimes, research is the only way to see differently...
- 6 In conclusion

〈Q&A〉

【講演内容について ~Ortega教授へのインタビュー~】現在の研究プロジェクトからエラーコレクションの議論と授業での教師の実践との間における研究ギャップ、更には第二言語習得のための早期教育の効果についてなど、視聴者へのメッセージを含めアドバイスいただいている。



just like for any other kind of knowledge

we must search for relevance and, if we find it, act upon it

we must recognize that all knowledge is contradictory, partial, generally true but not individually always applicable

variably useful over place and time

What can SLA research offer? It can...

1. sharpen teaching
2. not really much (yet)
3. help us see the world of language learning differently

error correction
age
multilingualism

商品詳細・ご注文は通販サイトから... www.japanlaim.co.jp/

サンプルムービー配信中

JLC ジャパンライム株式会社

TEL.03(5840)9980 FAX.03(3818)6656

ジャパンライム E141

検索

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-14

【お申込み・お支払い方法】ご希望の商品番号を指定し、電話かハガキ、FAX、もしくはDVD通販サイトにてお申込みください。受注確認後3~6営業日後でお届けします。

○送料は1回につき741円+税。○到着日指定で「代金引換(手数料無料)」の宅配便でお送りします。○カード(VISA、MASTER、AMEX、他)もご利用できます(分割可)。

E141

2019.4

～宮城教育大学附属・小学校英語教育研究センター主催 特別講演会～

いつ、どのように、どのくらいフィードバックを与えれば良いのだろうか？ そんな教師の悩みに応えるDVDシリーズ!!

小・中・高等学校を通してコミュニケーション活動の充実が求められている中、英語教師は、児童・生徒の間違いにどのように対処すべきでしょうか。

学習成果や達成感を高めるフィードバックとは？

このシリーズではRod Ellis教授がライティングに対しての様々なフィードバックをそしてRoy Lyster教授がスピーキングエラーの様々な対処法を提示しています。

いずれも様々な種類と実践例を示しながら、フィードバックの理論と実践についてわかりやすく解説し、教師がどのように実践していけばいいのか指針を与えています。

第二言語習得研究の分野において世界的に活躍されているお二方の講演をご覧いただくことで、フィードバック理論全体の理解が深まり、日々の指導を見直すきっかけとなることでしょう！

監修／鈴木 渉・板垣 信哉
(宮城教育大学 教育学部 英語教育講座)

*講演はすべて英語で本DVDもすべて音声はそのままで。



商品番号 E105-S

The Role of Oral Feedback in Communicative Language Teaching

コミュニカティブな言語教育における
口頭フィードバックの役割

購入特典
パワーポイント資料
PDF形式 各7P
英語版と日本語版の
同内容2種

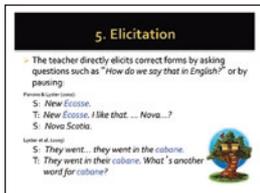
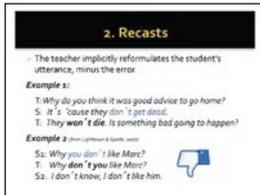
講演者 **ロイ・リスター教授**

(カナダ・マギル大学)

Roy Lyster (McGill University Montreal, Canada)

- CLTにおけるインターアクションの重要な役割
- 足場がけ(Scaffolding)
- 訂正フィードバック(Corrective Feedback:CF)
- 様々な教室での授業1時間ごとのフィードバックの数
- 訂正フィードバックの種類(Types of corrective feedback)
- 言語証拠の種類
- イメージにおける訂正フィードバックの割合
- なぜリキャストがこんなにも多いのか？
- 目立たないリキャスト:形式よりも意味
- プロンプトの利点
- プロンプトの曖昧さ
- 実験研究でのプロンプト vs リキャスト
- 様々な訂正フィードバックは、様々な理由で、学習者に効果的
- CFのあとの学習者の修正(repair)は重要か？
- いつ使うのが一番いいのか？
- 多様なCFを組み合わせる／多様性の必要性
- 教師のCFへの意識を高める
- “フィードバックのパワー”

<質疑応答>



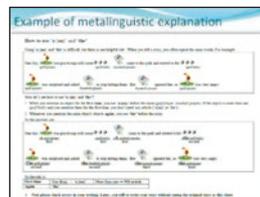
全1巻 7,000円+税(送料別) / 86分



商品番号 E95-S

Correcting Errors in L2 Writing

第二言語ライティングにおける
誤りの修正



講演者 **ロッド・エリス教授**

(オークランド大学 / 上海外国語大学)

Rod Ellis (University of Auckland/Shanghai International Studies University)

- Introduction はじめに
 - ・Focus of feedback: フィードバックの対象
 - ・Aims of corrective feedback: 修正フィードバックの目的
- A typology of options for written corrective feedback: WCFの選択肢
 - ・Direct WCF: 直接的WCF
 - ・Indirect WCF: 間接的WCF
 - ・Metalinguistic WCF: メタ言語的WCF
 - ・Example of using error codes: エラーコードを使った例
 - ・Example of metalinguistic comments: メタ言語的コメントの例
 - ・Example of metalinguistic explanation: メタ言語的説明の例
 - ・Brumfit's Model of WCF: BrumfitのWCFモデル
- Some controversies: 論争
 - ・TruscottとFerrisの主張
 - ・Van Beuningen et al.'s(2012) study: Van Beuningen et al.(2012)の研究
 - ・Direct vs. metalinguistic feedback: 直接的 vs. メタ言語的フィードバック
 - ・Focused vs. unfocused WCF: 焦点化する vs. 焦点化しないWCF
 - ・Should learners be told to revise?: 学習者は書き直すべきか？
- Conclusion: 結論
 - ・WCF works: WCFは役に立つ
 - ・Which type of WCF is most effective?: どのタイプのWCFがもっとも効果的か？

<質疑応答>

全1巻 7,000円+税(送料別) / 94分